

〔風雅和歌集九〕あづまへまかりけるに、やす川を渡るとして、

前大納言爲兼

やす川といかでか名にはながれんくるしきせのみ有世と思ふに

〔夫木和歌抄二十四〕名所歌中に八洲河舟

參議爲相卿

雨ふれば船よりぞ行やす川のやすく渡りし瀬をばたどりて

〔書言字考節用集二〕朝妻渡アサツマワタシ江州坂

郡

〔松葉名所和歌集十一〕淺妻渡 近江

〔山家和歌集下〕題しらず

おぼつかな伊吹おろしの風さきに朝妻船はあひやゑぬらん

くれ舟よあさづま渡り今朝なよせそいぶきのたけに雪しまくなり

〔夫木和歌抄三十三〕日吉社にたてまつりける五十首初春歌

家長朝臣

にほのうみやあさづま舟も出にけりつなぐこほりを風やとくらん

〔あづまの道の記〕朝妻の浦にとまりて、その朝おき侍りて、

みし夢のあさづま舟の立かへる涙ばかりを袖に残して

〔藤河の記〕よるの四時にはつさかといふ里に舟をよせてゑばらく休息す、これより夜舟をいたして、五日のほのぐにあさ妻につきぬ

ほのぐとあさづまにこそつきにけれまだ夜をこめて舟出せしみち

〔吾妻鏡二十五〕承久三年六月三日丙辰關東大將軍著畢遠江國府之由、飛脚昨日入洛之間、有公卿
僉議、爲防戰被遣官軍於方々、仍今曉各進發○中略、東山道大井戸渡、大夫判官惟信、五日戊午、及晚

山道討手武田五郎同小五郎○中略、渡大井戸、與官軍挑戰、

〔延喜式兵部二十八〕諸國驛傳馬